

## 在特会の論理 (11)

——ノンポリ転じて活動家になったK氏の場合——

樋口直人

(徳島大学総合科学部)

### Logics of *Zaitokukai* Activists (11)

The Case of Mr. K

HIGUCHI Naoto

University of Tokushima

#### 1. 経緯

本稿を執筆している2012年9月現在、尖閣諸島の領有問題をめぐり、日中関係は1972年の国交正常化以降最悪の状況にある。筆者は、近隣諸国との摩擦が在日外国人に対する憎悪に変換されることに注目し、それを「日本型排外主義」とみなした。この見方が正しければ、尖閣問題は新たな排外主義者を生み出すことになる。では、近隣諸国との摩擦がどのような排外主義者を生み出すのか、中国の反日デモをきっかけとして在特会で活動するようになったK氏(40代男性)の経験をみていこう。

K氏に対しては2011年11月18日に聞き取りを実施しており、以下は彼の言葉をそのまま再現しつつ、読みやすくするため順序を入れ替えて再構成したものである<sup>1</sup>。

#### 2. 政治に対する関心

ノンポリとか言われる感じですかね。まったく関心がなかったの。まったく(左右)どちらでもなかったですね。昔からアジアに対して日本はひどいことをしたって聞いてますし、社会人になってから従軍慰安婦問題も聞いてますけど、その時も「そん

なのいちいち問題にすべきじゃないよ」というくらいで。当時は外国人問題にもまったく興味がなかったですね。思うのは、無関心の時よりも関心を持ったほうがよかったと。政治問題に大きく関心を持ったことがありますし、政治問題は国内問題で自分にふりかかってくると思います。だから、何も知らなくて気がついたらこんなことされてたとか、こんな法律ができてたというよりは、関心を持っていたんで自分では納得がいかない決める事ができる、法律ができるというときに反対できるというのがあります。

新聞自体は読んでないんですけど——新聞ってないんですよ——ネットで見てるニュースくらいですね。各新聞社が出しているのがありますから、それを見る。(新聞は)昔はとってましたね。一般紙といわれる朝日新聞とか読売新聞とかだとかなり前にはとってたんですけど、その時、親がスポーツ新聞だけになったんですよ。スポーツ新聞はしばらくとってたんですけど、父親が死んだんで——もともとスポーツ新聞は父親がとってたんでそれ以降は新聞をとらなくなったというのがあります。

今は(政治に関心を)持っているほうです。昔まったく興味なかったんですけど、やはりこの問題に興味を持ち出してから政治にも興味を持ったという感じですね。(選挙には)行っていないんですよ。まったく興味がなかったんで。今もう興味を持ってる方

<sup>1</sup> こうした構成は、他の一連の記録と同じものである。調査の経緯や方法については、樋口(2012a, b, c, d, e)を参照。

なんで、今から考えると後悔してますね。(20 代の頃は) 全然行ってないんです。だから今になって後悔している。本当にまったく興味がなかったんですよ。選挙そのものにも興味を持てなくて、選挙自体がそんなに重要とかまったく考えてなかったんです、当時は。(政治の話をするとも) まったくなかったですね。自分の知り合いとか友達も政治の話をする人はまずいかなかったんで。

(政治に関心を持つようになったのは) よく覚えてるのが、上海で大規模な反日デモがあったとき、あの時に調べ始めてちょっとおかしいなと感じ出して、調べているうちに選挙の重要性を知ったということです。いや、ちょっと勘違いしていたかもしれませんが。2002 年がワールドカップで、結構興味を持ったという人も多かったんで勘違いしたが、その後のデモです。2004 年ですかね、その辺の大規模なデモですね。それからです。その前は、多分(選挙に)行ってないですね。その辺から興味を持って調べ始めて、選挙がいかに重要かというのをようやく知ったんですね。(それから) 欠かさず行くようにしました。

(投票先は) 基本的には自民党に入ってる形ですね。でも自民党も 100% 頭から信用しているわけではないので、その時になって調べてこの人に入れたくないなと思ったら、別の候補者を探す。そういう感じですね。ですから投票する前には候補者を調べて、自分の考えに一番近い候補者に入れるようにしています。

### 3. 外国人との接点

いったん専門学校行ったんですけど、中退して就職したという形です。(学校や職場での接点は) まったくありません。(知り合いに外国人が) いるにはいたんですけど、当時は気がつかなくて後で気がついたというのがありますね。例えば在日韓国人の方とかは普通に日本名を名乗ってたんで、付き合ってもまったくわからなかったんでしょうね。後になってあの人は実は韓国人だったって知るケースがありましたね。ですから外国人の方と親密に付き合うことはなかったです。

ただ、地元に住んでれば韓国人というか朝鮮人の評判の悪さは子どもの頃から聞かされているんで、その話だけは昔から聞いてますね。××のほうに朝

鮮部落があったりして、△△の方にもあったそうです。実際に朝鮮人に何をされたとか、そういうのはないんですけど、子どもの頃から知り合いには「××には朝鮮人がいて危険だから行くな」とか、そういう話はたびたび聞かされていました。ただ、弟が一度被害にあったそうです。いきなり囲まれて殴られたり、そういうことはあったらしいです。

### 4. 「外国人問題」に関心を持つきっかけ

先ほど言いましたように、上海の大規模なデモですね。あのデモで昔から日本は中国や朝鮮に対してひどいことをしてきたんで、嫌われているって話ずっと聞いてたんですよ。当時の僕としては、当時戦争時代だったんでそんなの別に当たり前のことじゃないか、その程度しか考えてなかったんですよ。でも、あれだけの大規模なデモが始まったんで、当時の日本はどれだけひどいことをしたんだろうと思って、調べ始めたんですよ。ところがほとんどそういう事実はなかったというのがわかって、今に行き着いた、たどりついたんですね。

(拉致については) 見て関心は持ってはいました。当時の拉致問題に関しては、ただ、それにおいて朝鮮人批判をするとか、当時はまったく気にもしなかったですね。拉致した北朝鮮に対してはやはり、多少なりとも腹を立てたというのがありましたけど。

(W 杯については) そういう話も聞きますね。当時僕は、もともとサッカーが好きではないんで、日韓ワールドカップもほとんど見てないんですが、当時やはり韓国のひどさは多少なりとも聞いてはいるんで、サッカーファンはそれで興味を持ったという方が多いみたいですね。そういう話は聞きます。(自分は) その時はまったく気にはしなかったです。

ネットで調べて、当時日本がアジア諸国に対してひどいことした、と書いてあるのがありましたし、その反証としてそんなことはあり得なかったという感じで。そういうのを見ていて、おかしいんじゃないかなと思ってきたんですよ。

調べていくうちに、当時は中国人より朝鮮人の方が身近なんで、そちらのほうが多く出てきたものから、そちらをより多く調べるようになったということですね。より身近な問題として、やはり在日韓国人・朝鮮人という問題が大きいと思うんです。朝鮮半島中国本国の人間については、間接的に問題に

なってくると思っています。直接的な被害は、在日の韓国人・朝鮮人、または中国人がいますので、そっち側のほうがより大きいのではあるのですが、国と国同士の付き合いになってしまいますので、本国にいる人たちはですね。そうすると、個人の問題とはなりにくいのですが、間接的に個人にふりかかってくる問題ではないかと僕は考えています。

(関心が強いのは) 身近に感じている在日の方ですね。そちらの方がより大きな問題かなと僕は思いますので。直接的に身近な問題になりますので。どちらが大きく関心を持つかといえば、在日の方になりますね。もちろん中国に関心はあったんですけど、在日と外とを分けてなかったと思うんですが、それで在特会に入って、より在日の方に関心を持つようになってきた。

## 5. 在特会との邂逅

(ネットは)僕は元々パソコンを趣味としていて、かなり早い段階で使ってたね。確かいつごろだったかな、95年ぐらいに初めてインターネットにつないでましたね——それ以前はパソコン通信でやっていたんで。会社にも入ってましたし、当たり前のように使ってた。当時は在特会なかったですね。

興味を持って調べているうちに、今の桜井会長ですね——Doronpa のサイトを見つけて、そこのブログとか見てるうちに在特会を設立しますという話をして、入ってみようかなという感じでしたね。あちこちそういう情報を探してるうちに、桜井さんのサイトにたどりついて定期的にみるようになったという感じですね。僕は番号が1000番台なんで、設立して3ヵ月後くらいですね。最初はすぐ入ろうかなと考えたんですけど、ちょっと考えて、でもやっぱ入ろうかなという感じで3ヵ月後くらいに入ったんです。

設立したってのは知ってたんですけど、入ろうかどうかどうしようかって考えて。先ほど言ったように弟が被害にあったという件もあって、家族に被害が及んだりしないかなとちょっと考えたんですよ。地元では朝鮮人に対するイメージってあまりよくないんですね。何かあると集団でやってくるとかですね、そういう話よく聞くんで。考えたんですけど、入っとくべきかなということで入りました。

(在特会のことを) 友達に話したことはあります

ね。その当時、友達はサッカーファンだったんで、僕よりも先に朝鮮問題というのは知ってたと思います。その友達と話をしていた、こういうのができたよ、入ろうかという話をしたことはありますね。(一緒に) 入ったと思います。その後、話をしたので、もしかしたらやめたのかもしれませんが。(友人は) 住んでいるところは遠隔なんですよ。ネットでチャットで話をしたんですね。99年から2000年にかけて1年半転勤になっていたんで、その時に知り合った友達ですよ。最近会ってないですけど、しばらく定期的に会っていた人です。雑談の中で出てきたんで、「こういうのがあって、入ろうか」と話をしていました。

(入会まで) 書き込みはしなかったですね。調べるだけ。当時僕はまったくそういう情報知らなかったんで。知識を身につけるといって、読んでいくだけという感じ。当時は入っただけで満足みたいな感じだったんですけど、入っただけでは意味がないなということで、ちょっとしてから——2、3ヶ月後だったと思いますけど、地元でイベントがあるということで桜井会長が来られて講義をやるということで、「入っただけで何もしないのもなんだから」行ってみようかなと行って、そこで話を聞いたんですよ。

交流会といったほうがいいですね。桜井会長の話とゲストによべれたつくる会の方がこらえて、その方の実体験をもとに。炭鉱で働いていて戦時中に朝鮮人が働いた記録を出して、別に強制連行で来たんじゃないとか過酷な労働を強いられたんじゃないとか、そういう話をされてました。初めて出たときは知らないことばかりで、当時の記録とか資料とか見せられたんで、なるほどなという。知らないことを知ったという感じですね。よかったなと思ったんです。

(その手のイベントに出たのは) 初めてです。(出るのは) 多少抵抗ありましたね。あまりそういうのは好きじゃないタイプなんで。やはりこの問題を調べるわけで、何とかしようと在特会に入っただけで何もしないのは意味がないなと思ったんで。仮にそれで情報発信するにしても、1人でやるよりも組織のほうでやった方が効率というか説得力があるだろうなという考えがありました。

やはり在日問題とかでは実態としてはそんなに在日朝鮮人韓国人に被害を受けてるという感覚はもち

ろんなかったんですけど、調べているうちに知らないところでいろいろあって、最終的には自分に降りかかってくるようなそんな感じのものがあるなという思いがしてきたんですね。そういうことで、在日問題を取り扱うということなんで、入ったほうがいいかなという感じですね。最終的には家族に危害が及ぶんじゃないかとちょっと考えたんですけど、大丈夫じゃないかなという感じがしてきたんで。それも入るきっかけにはなりました。

## 6. 運営側へ

5月か6月かそのへんだったと思いますけど。在特会入ってイベントをやるっていうんで、ちょっと行ってみようかなと言うことで。その時は支部のほうで何度か勉強会だの情報共有とかそういうのをやって、ちょくちょく顔を出して。そうしたら当時の支部長が、運営に入ってくれないかという話をして、こういう活動もいいかなと思って運営として入ったんですよ。それが確か秋から冬にかけてだったと思います。入会して1年たらずにですね。街宣とかその当時はまったく考えなかったですから。運営になって半年近く後ですね、街宣始まったのは。

(街宣には) 結構抵抗ありました。人前に立つのは好きではなかったの。その時は僕はマイクを持たずに、動画の撮影だけやったんですよ。だから多少抵抗はあったものの、そこまで抵抗はなかったという。基本的には撮影やってるので、あまりマイクは持たないですね。ただ一時期人手不足でマイク持ってんで、多少は慣れました。本当はやりたくないんですよ。やりたくないんですけど、ほっとくわけにはいかないという感じで。

(時間的には) 僕はプログラマーですけど、会社としてはソフトハウスじゃないんですよ。だからそこまで過酷じゃないんですよ。だから割と暇は多いです。(休日)は大体休みます。ですから特に無理して行ってるというわけではないです。面倒くさいけど、という感じですね。ただ、大体休みの日ってのは時間があるんで。やるとしたら家の用事で出かける必要ないかなという感じなんで、重要な用事があるときはいいかないんですね。僕らも参加するときにはみんなで話しますけど、まず自分の生活を先に守ろうということですね。生活に影響があるのであれば、出ないほうがいい、そういう感じでやっています

んで。

## 7. 活動続ける動機

(得られたものは) 多分あんまりないんじゃないんですかね。せいぜい知り合いが増えたという程度じゃないかな。あとは、やって多少なりとも自分の活動成果が出たんじゃないかなと思えることがいくつかあるんで、そういう時はやった甲斐があったなという気はします。外国人参政権についても反対の声を各地で上げてたんで、簡単には国会に提出できなくなったということとか、人権擁護法案についても出す寸前とかいわれてたんですが、国会に出さずに済んだ。僕らの活動が本当に影響があったかわからないんですけど、国会には出されなかったというところで、活動した甲斐があったんじゃないかなと考えています。

(活動は) 正直あまり楽しくないですよ。もし楽しい部分があるとするならば、活動終わった後、みんなと食事しながら話をするってぐらいですかね。僕の性格からすると根をつめると嫌になってくるんで、根をつめないでいいや、という感じですかね。情報は仕入れるんですけど、そんなに深刻に考えることはしていない。

(活動続けるのは) 実態をいろいろ知ってしまった。一番僕が腹が立っているのは、年金の問題と生活保護の問題があります。日本人に対してはまったく出さないくせに、外国人には生活保護が結構簡単に出てしまっている問題ですね。年金もそうですね、日本人は25年間掛金払わないと出ないのに、外国人、きわめつけは朝鮮人に対しては掛金1円も払っていないのにかわいそうだからといって、年金の代わりに月額いくら払っているとか。そういう問題を知ってしまったためにですね、自分の将来にも関わる問題なのでほっとけないなという感じはしています。やはり日本人に対して問題があると思われることがあれば、在日韓国人・朝鮮人に限らず活動とすることはあります。

## 8. 関心のある 이슈

最近で言えばTTP問題とかですね。あれに反対でやったりしました。僕らが考えているのは、やはり産業が——農業がダメになるという問題ではなくて、食糧問題というかライフラインですよ。生命線を

とられ食糧問題を外国に握られてしまうと、全般にわたって不利益が生じるという可能性を考えているんです。ですから、TPPに関しては参加すべきではないという考え方ですね。大もとのきっかけは中国問題なんですけど、そこから在日問題に移ってきて、在特会で活動してるうちに日本全体の不利益になるような問題は関心を持っていこうという感じになっていますね。在特会の大きな目標というのは、入管特例法を改正して特別永住資格をなくしていこうというのが設立当時からあって変わらないです。でも、保守活動をやっている以上、日本の国に対して不利益になる問題は関心を持って反対すべきは反対していききたいという感じですね。

(外国人参政権については) いつ頃か覚えてないですけど、結構早い段階でネットで話題になったという感じですね。僕も反対の立場なんで、そういう問題が起こるたびに反対運動とかはよくやりました。在特会に入って以降の早い段階という感じですかね。少なくとも民主政権になる前はデモやって街宣やった記憶があるんで、もうちょっと早いですがね。

国内問題で、国内に関することを他国からきた外国人に決めさせるのはおかしいんじゃないかという感じですね。そもそも外国人に関しては自分の所属する国で政治に参加する仕方、当然持ってるじゃないですか。その上に日本国内の問題に口を出す権利を有するのは、やはりおかしいんじゃないか。もし外国人参政権が成立したとして、A国の人間と日本の国益が反した場合、参政権を行使するのはおかしいんじゃないか。この問題は大きく取り出されてしばらく下火になって、また大きく取り出されて、山積みになっている感じなんで。要するに国会に上程されようという話が出るたびに、反対活動をやっています。成立してしまうと自分の生活が危うくなると感じてますので、高い関心を持ってやっています。自分の生活に直結すると考えてますので、優先度としては歴史問題よりも大きく関心持っている感じですね。

(年金問題は) いずれ消える可能性がないとはいえないんですけど、放置しておくとか拡大される可能性があるんですよ。たとえば川崎市ですね。最初は1万円ぐらい支給していたのが今は2万いくらか増えているんですよ。そうすると拡大する恐れがある。

となると、消えずにずっと残ってしまうんじゃないか。何よりも、やはり僕は掛金払わないともらえないのに、彼らは一銭も払ってないのにもらってる。僕らがやってるのは街宣ぐらいなんですけど、桜井会長がこられた時に市役所のほうに担当者に抗議したことがあります。向こうはやはり悪いとは考えてないみたいでして。でも明らかに日本人には存在しない制度ですから、やめてほしいと考えてますね。

そもそも、現在の入管法では生活ができない外国人は生活できない外国人は日本に存在してはならないとなってるんですよ。そうなっているにもかかわらず、日本で生活できない外国人がいるのはなんだ。何よりも、外国人が生活困ってるんだから、あの人たちが所属している国は何やってるんだ。国に助けてもらえよ、そんな感じですね。

(領土問題の優先順位は) 下がるといえば下がるようになってしまいますが、重要な問題には変わりないですね。領土問題に関しては、韓国との間に竹島問題がありますけど、僕個人については生活に直結する問題ではありませんが、現地の人たちにとっては生活に直結する問題ではありますので。自分個人についてはそうでもありませんけど、日本人としては重要な問題ではないかな。

(関心が) 朝鮮人になっているのは確かですね。在特会の影響が大きいとおもいます。在特会に入ってから、本来在日韓国人・朝鮮人を扱う会なんで、それによって活動の中心がそっちに移ってきているんですね。そっち側が大きくシフトしたのは間違いないです。(中国に対する関心は) 相対的には若干下がっていると思います。中国に関しても尖閣問題とかあいうのがでできますので、日本に不利益があるような問題は、結構大きく、無視はしてないということです。

## 9. 結語に代えて

K氏は、中国における反日デモに関心を持ったのがきっかけだったが、在特会に入ってからもっとも関心を持ったのは、「年金問題」など「身近な問題」だった。「風吹けば…」ではないが、近隣諸国との摩擦をきっかけとしてインターネットで検索を掛けると、それがいつしか「年金問題許すまじ」と変換されてしまう。

排外主義運動の関係者は、自民党の支持基盤とな

る組織に組み込まれているとはいえないが、基本的には保守支持層であった(樋口 2012f)。それに対して K 氏は、選挙にまったく行かなかったというくらい政治とは無縁な生活を送っていたが、反日デモをきっかけとして政治にまで目覚めてしまうことになる。

インタビューから垣間見えるのは、実家から通って仕事を無難にこなし、友達もいないわけではないがそれほど積極的に何かに挑戦するタイプではないインドア派のサラリーマンの姿である。そうした生活スタイルは変えないものの、月に何回かは在特会に関わるようになっていく。最悪の形ではあるが、積極的に政治参加するようになった K 氏のような存在は、もともとのイデオロギーからすれば排外主義に取り込まれる必然性は必ずしもなかった。ネットに頼らざるを得ない新興の組織だからこそ、ある種のネットユーザーをひきつけなければ存続はおぼつかない。だが、K 氏を他の活動に誘うようなインターネットの「魅力的」なコンテンツはそれほど発達しているとはいえない。橋下徹・大阪市長の Twitter を通した発信が影響力を持つ一方で、既成政治勢力も、左派市民運動も、K 氏のような層を取り込むことに失敗してきた。K 氏のような政治的無関心層の一部も、橋下の発信に意味を見出したという推測は可能である。インターネットを介した政治的組織化の方法を真剣に考えない限り、インターネットは極右にとっての草刈場となり続けるだろう。

#### 文献

- 樋口直人, 2012a, 「在特会の論理(1)〜(7)」『徳島大学社会科学研究』25 号.
- , 2012b, 「在特会の論理(8)〜(9)」『徳島大学地域科学研究』1 号.
- , 2012c, 「『行動する保守』の論理(1)〜(3)」『徳島大学地域科学研究』1 号.
- , 2012d, 「在特会の論理(10)」『大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター年報』8 号.
- , 2012e, 「行動する保守の論理(4)」『茨城大学地域総合研究所年報』45 号.
- , 2012f, 「排外主義運動のミクロ動員過程——なぜ在特会は動員に成功したのか」『アジア太平洋レビュー』9 号.

(付記) 科学研究費補助金によるプロジェクトの一部として本稿のもととなる調査はなされており、稲葉奈々子、申琪榮、成元哲、高木竜輔、原田峻、松谷満の各氏との共同研究によっている。記して感謝したい。